

松川村議会

第128号
平成20年4月15日



村長の政治姿勢を問う（甲斐澤議長的一般質問）

平林村政2期目スタート 平成20年度骨格予算を議決

平成20年第1回定例会が3月11日から16日間、開催されました。まず、甲斐澤議長が2期目、初議会に臨んだ平林村長に「議会を代表し、無投票当選に対し祝意と、村発展のために健康に注意して尽力されたい」と歓迎のことばを述べ、平林村長は、重責を感じる。清潔と公正を誓い、村民参加の明るい村づくりを努める」とあいさつをしました。

平成20年度予算は、村長選挙のため骨格予算となり、歳入歳出の総額はそれぞれ41億1400万円。主な歳出は、多目的交流センター建設事業の6億3630万円などで、経費削減により物件費と公債費は前年度より1・4割減。歳入は、村民税が前年度当初予算より微増となっています。

国民健康保険税2割の増税は審議会から村長への苦渋の答申を踏まえ、討論の結果議決しました。また4月から新設の後期高齢者医療制度に関する条例なども議決し、後期2年に向けた議会構成を決め、26日閉会しました。

平成20年第1回定例会提出案件

【専決】

平成19年度一般会計補正予算

賛成全員可決

【条例】

新設 松川村後期高齢者医療に関する条例

可決 賛成10反対1

一部改正

松川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

可決 賛成10反対1

付属機関設置条例の一部を改正する条例など3議案

【予算】

平成19年度一般会計補正予算など5議案

平成20年度一般会計予算など8議案 予算特別委員会へ審査付託 賛成全員可決

【その他】

長野県後期高齢者医療広域連合規約の変更など4議案 賛成全員可決

【報告】

平成20年度各会計予算

【人事】

副村長の選任に同意 奥野勝久さん（神戸区）

（任期：平成20年4月1日から4年間）

監査委員の選任に同意 川上雅嗣さん（三軒家区）

（任期：平成20年4月16日から4年間）

【選挙】

議会常任委員、議会運営委員の選任など6件 指名推薦により選任

陳情

【採択】

医師・看護師不足を解消し、安心できる地域医療体制の確保を求め
る陳情書

老人医療費給付事業の継続を求める陳情書

保険業法から共済制度の適用除外を求める陳情書

農地政策の見直しに関する要請

農業委員会の必置規制の堅持に関する要請

【不採択】

「鳥獣被害防止特措法」関連予算を、鳥獣捕殺ではなく自然林復元
と被害防除に使うこと等を求める意見書提出に関する陳情

20年度予算への 議会意見 〈予算特別委員会〉

議会では、下記のような意見を付けました。



順調に進む、多目的交流センター建設工事

[共通事項]

- 住民の健康増進は、新しく始まる特定健診とともに環境福祉課及び社会教育課の連携で、より良い施策を講じられたい。
- 外来植物駆除や堤防等の草刈は、農地・水・環境保全向上対策組織、経済課、建設水道課、環境福祉課が調整して取り組まれない。
- 子育ての相談窓口を一本化した「子育てリンリンセンター」の取り組みは画期的である。成果を期待したい。

総務産業建設

- 広島原爆記念式典への派遣は、悲惨な戦争を伝えるために子供たちの参加も検討されたい。
- 寄って停まつかわのY・M直売所は、生産者の努力により農業の活性化に大いに寄与している。地産・地消の観点からも更なる発展のため建物・場所等の検討をされたい。
- 村の活性化に向け首都圏や関西方面へ出向く回数を増やすなど、PRを積極的にすすめられたい。
- 里山の緩衝帯の整備をより効果的にするため、年数をかけず短期に取り組む方法を考えられたい。
- 「松くい虫」の対策は早期発見、早期対応に努力されたい。

社会福祉文教

- 県の老人医療費給付事業廃止のなか、老人診療費を村独自で激変緩和措置として継続する対応は評価できる。
- ごみの減量化及び資源化に向け、村民と共にすすめる啓発活動など、協働の取り組みを実施されたい。
- 小中学生の生活習慣病予防検診に積極的に取り組むなど、食の大切さを基本に据えた健全育成の推進は評価できる。家庭の意識啓発とあわせて進められたい。
- 安曇節発祥の地として保存会の活動は評価できる。村文化財として、村民の理解を得る啓発など、保護伝承の取り組みを更にすすめられたい。
- パターゴルフ場利用が減っている。村民の健康増進対策として積極的な利用に努力されたい。

付議された事件は2件で、平成19年度一般会計補正予算(第5号)と特別職の職員で常勤のもの等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例で、いずれも可決しました。

補正予算は、原油価格高騰による経済的負担の軽減を図るため、70歳以上の独居、障害者、母子・父子世帯など230世帯に対し、扶助費として1000円の灯油券(村内の灯油販売店で使用できる)を7枚配布し、灯油購入費を助成するものなどです。

条例の一部改正は、村長の給料月額を10万円減額(平成20年2月分)する条例改正です。

灯油購入費を助成
平成20年1月10日
第1回臨時会

農政懇談会

平成20年2月7日

「村農業の現状と課題」をテーマに農業委員会・リーダー会・青壮年部・議会の懇談会を開きました。

まず、長野県・食と農業農村振興の県民条例と北アルプス山麓ブランドについて講義を受けました。

北アルプス山麓ブランド認定体験発表

松川村では、平成19年度鈴ひかり 安曇野松川手造りみそ 田鯉のすずめ焼きの3品が認定されました。この北アルプス山麓ブランド認定者と認定農業者及び新規就農者の体験発表がありました。

ワークシヨップ方式による懇談会
グループ懇談会では、村民全員にセールスマンになってもらったためブランド品などを地元の人にまず認知してもらおうことが大切である。



期待高まるブランド認定品を学習

食育推進を含め、地元食材を学校で活用してもらい、伝統的な料理・農業の大切さ・地域の環境保全など、村民、特に年配の皆さんの協力が大事となる。
地域の農業をどうするかという認識が、どのくらい深まっているかが問題である。
地元の農産物を活用し生産につなげるには、組織として企業的な要素も考えることが必要である。
など、活発な意見交換ができました。
今後、生産と消費の関わりや伝統的な食文化など、地域住民全体で食や農についての認識を深め、地域の特性に応じた農業の展開をすすめる上で有意義な懇談会となりました。

社会福祉文教常任委員会

委員会報告

総務産業建設常任委員会

大北地域里山シンポジウム

平成20年1月22日

美しい県土の創造と地域生活の安全を目指して、森林整備と間伐材などの木材資源の有効活用を、地域住民の総意をもつて推進するため、講演会とパネルディスカッションが行われ、全議員が参加しました。

大北農業パワーアップ研修会

平成20年2月5日

平成17年「食育基本法」が制定され、特に最近では「食」に関する様々な問題が発生しており、「食の大切さ・安全安心・地産地消」に関心が高まる中、大北地域の農業振興を図る目的で研修会が開催されました。

「子育てリンセンセンター」

相談は ☎62 3111

「子育て支援」で、4月から相談窓口がひとつになります。

昨年12月に開催された4つの組織の合同会議で、「子育て支援の窓口が一つになれば、不登校やいじめなど誰でも子どもの相談が気軽にできる」との要望となり、教育委員会がそれに応え「環境福祉課と連携して、年中

基調講演の後、料理研究家の横山タカ子さん他6名によるパネルディスカッションがあり、

「食事は、健康と生活習慣の基本である」「最近の食事は、日本から西洋型・都会型へと変遷し、郷土食が忘れられている」

「食の安全安心を考え、地域で生産された旬の食材を学校給食に生か

し、郷土料理や家庭の味を子どもに伝えよう」という提言がありました。



地元の食材で安全安心の給食を

無休で支援体制をしていく」と早急に体制づくりをされ、「いじめ・虐待・不登校・しつけ・育児」など相談を受けることになりました。

また、教育長と、通学路・食育・文化財の指定・放課後子どもプラン・旧第2倉庫の民俗資料などについて話し合いました。
今後、多目的交流センターの建設と利用について、状況を確認していきます。

池田松川学校給食センター運営委員会

平成20年1月23日 臨時会

この会計は給食費でまかない、給食材料などの仕入価格高騰となり、給食費について、諸物品の値上がりも多く見通しもできない状況が考えられるということで、急きょ臨時会が開催されました。

検討の結果、値上げをすぐにしなくて状況を見ていくということになりました。

平成20年度は、米飯給食を1回増やし週4回(月・

火・水・金)とする話がありました。

平成20年3月26日 第1回定例会

平成19年度補正予算は、歳入歳出それぞれ113万円減額して、総額1億388万円としました。内容は、給食費の減額と主食・副食の購入費減です。

平成20年度予算は、歳入歳出それぞれ1億385万円で、昨年より116万円減となります。

1日あたりの給食数は1,881で、うち松川村987、池田町878となります。

「森林づくり県民税」学習会を開催

平成20年3月5日

長野県地方事務所林務課長と税務課長を講師に迎え、4月1日から導入される「長野県森林づくり県民税」について、村職員も参加し学習しました。

「県内の森林は所有者の高齢化や木材価格の低迷などから荒廃が進んでおり、間伐をしないと水源の涵養や地球温暖化防止の機能が低下し、山崩れにもつながる」と説明があり、松川村では5年間で500分の2の整備目標を掲げています。

税収は、長野県全体で年約6億8000万円を見込んでおり、間伐や人材育成支援など森林づくりに活用されます。新たに「長野県森林づくり県民税基金」を設置し、県民の代表などによる第三者機関で管理され、使途の透明性・公平性が確保されます。

この新たな県民税は、従来の個人県民税に1人あたり年500円を上乗せして、5年間納税することになります。



信州の美しい里山を守るために

議会構成（後期2年）を見直し

3月26日、議会最終日に後期の議会構成を改選しました。

議長・副議長は、2年の申し合わせ任期を確認の上、全会一致で継続となりました。

甲斐澤議長は「村発展のため、さらに努力したい」とあいさつし、矢口副議長も「議長を支え、村民の幸せのため努力する」とあいさつしました。

常任委員・議会運営委員は議長の指名により選任し、各委員長・副委員長はそれぞれ互選により、一部事務組合議員は、選挙により次のように決定しました。

議長 甲斐澤 明
副議長 矢口弦八郎

同 同 議員 甲斐澤 明
同 同 議員 矢口弦八郎
同 同 議員 佐藤 節子

総務産業建設

常任委員会

委員長 新村久仁男
副委員長 榛葉 良子
委員 平林 源起
同 平林 寛也
同 河内 國治
同 矢口弦八郎

社会福祉文教

常任委員会

委員長 白澤富貴子
副委員長 井上 直昭
委員 甲斐澤 明
同 渡邊 尚省
同 横沢 喜造
同 佐藤 節子

議会運営委員会

委員長 平林 源起
副委員長 新村久仁男
委員 矢口弦八郎
同 白澤富貴子

北アルプス広域連合

議員 甲斐澤 明
同 矢口弦八郎

高瀬広域水道企業団

議員 甲斐澤 明
同 矢口弦八郎

池田松川施設組合

議員 甲斐澤 明
同 矢口弦八郎

同 白澤富貴子
同 井上 直昭

穂高広域施設組合

議員 甲斐澤 明
同 矢口弦八郎

議会報編集委員会

委員長 矢口弦八郎
副委員長 平林 寛也
委員 甲斐澤 明
同 榛葉 良子
同 渡邊 尚省
同 井上 直昭

食育委員会

委員長 白澤富貴子
副委員長 榛葉 良子
委員 横沢 喜造
同 河内 國治



議会 日誌

日	内容
10日	「1月」 議会全員協議会 臨時議会
16日	議会運営委員会
20日	消防団出初式
22日	議会全員協議会
25日	町村議会議員研修会
6日	「2月」 高瀬広域水道企業団議会
7日	農政懇談会
15日	穂高広域施設組合議会
21日	議会食育委員会
27日	北アルプス広域議会（22日まで）
27日	池田松川施設組合議会
5日	「3月」 森林づくり県民税学習会
7日	議会運営委員会
11日	議会全員協議会
18日	平成20年第1回定例会（26日まで）
19日	中学校卒業式
25日	小学校卒業式
ほか	保育園卒園式
1	村内新春賀詞交歓会
4	観光協会臨時総会
22	池田松川学校給食センター運営委員会
23	員会
25	営農支援センター運営委員会
26	青少年育成村民運動推進大会
29	村水田農業推進協議会
4	ボランテニア協議会総会
5	大北農業パワーアップ研修会
10	少年野球愛好会卒園式
11	スポーツ少年団表彰式
13	大北社会福祉事業協会評議委員会
14	温泉施設等運営委員会
28	町村議会議長会
27	社協理事会評議会
31	土地開発公社理事会 など

一般質問 9人の議員が登壇 平成20年3月24・25日



白澤議員

村長の政治姿勢

2期目の抱負は。

次の4本柱で進める。

村民参加の行事運営。

企業誘致を進め村の活性化

子育て支援、福祉環境対

策の推進。地産地消の推

進と観光農業の振興。

村財政の見直しは。

19年度の特別交付税の

収入が予定より多くなった

決算では多くの積立てが期

待できそう。

21村づくりの提言を踏

まえた西原地区遺跡公園周

辺整備の取組みは。

庁内各課が連携し検討

中。遺跡公園は用地買収を

進めている。

自立の村づくり実行プ

ランによる公共施設有効活

用などの考えは。

各施設管理は指定管理

者制度導入を検討したい。

国営公園開園と運動し

た振興策は。

馬羅尾高原のクロスカ

ントリーコースに子どもマ

ウンテンバイク合宿の要請

もある。村が元気になるよ

う観光農業や地産地消など

も考えたい。

計画されている村内マ

ップの内容は。

国営公園も視野に、道

祖神なども入れたウォーキ

ングなどに使用できるマッ

プを考えている。

子育て支援について

子育てりんりんセンタ

ーが開設されるが。

教育委員会が相談窓口

となり、役場内の関係課と

連携した支援を行いたい。



平林(源)議員

森林税と森林整備は

県は森林整備促進のため

森林税を導入する。村の

森林整備の計画は。

現在進行中のものは森

林税以外の補助事業により

3団地を間伐整備している

鳥獣害対策として緩衝

帯の早期整備が必要。短期

間で整備できないか。

緩衝帯の総延長は8千

500m幅の整備で1千500

250万円の費用。全体で

2千万円。7割補助適用に

なるが、今までの整備経過

を踏まえ検討したい。

馬羅尾高原の活用は。

マレットゴルフ場は9

ホール増やすと大きな大会

が呼べるので検討したい。

指定管理者制度導入は

近隣市町村は導入した。

村施設への導入の考えは。

福祉面も考慮する中で

施設ごとに検討したい。

村の長期計画はどうか

平成21年度で第5次総

合計画が終了。不透明な社

会情勢に対応するため長期

ビジョンの策定は不可欠。

第6次の取組みの考えは。

平成21年度までに具

体的な数字などを示したい。



渡邊議員

廃止すべき後期高齢者医療

制度

廃止法案を4野党が国

会に提出。全国で中止撤回

見直し運動が展開されてい

る。75歳以上を一律に独立

した医療保険に強制加入さ

せる制度は例がないが。

制度がスタートしないと

わからない点が多い。改

善が必要なことは国・県へ

要望していききたい。

次の点を要望したい。

特定健診などは希望者に

無料実施。資格証明書の

発行はしない。老健保険

からの脱退は強制しない。

高齢者広域連合。村が受

託する特定健診の自己負担

分は無料。発行は広域連

合が行う。要望は伝えたい。

65歳から74歳で障害のあ

る方は選択可能。

米価下落と生産調整

米の生産調整は自主的

が原則。強制は発展にマイ

ナスではないか。

村の方針として全員が

協力してほしい。

自分の販路で完売でき

る人は除外できるか。

生産調整は全員の協力

が必要。自分だけ売れば

よいという考えは違う。

農業観光振興は

農業観光振興は村政の

大きな柱だ。生産者、消費

者、関係者、村民の知恵と

力を総結集するプロジェクト

を立ち上げ、村長を本部

長に、松川村観光農業の基

本計画をマップにまとめ、

夢と希望、元気が出る松川

村観光農業づくりへのチャ

レンジを提案したいが。

意見を参考にがんばり

たい。



佐藤議員

開発条例等の見直しを

開発関連の条例は、ど

のように役立ってきたか。

基本はむらづくり条例

住み良く暮しやすい村を次

世代につなげることを基本

理念に土地利用の集約、誘

導などをしてきた。

この条例などが村の発

展を妨げることのないよう

見直しはどうか。

改正の要望はない。現

在はこれよりよいと考える。

社会教育の現状と今後は

村公共施設の利用状況

と運営上の問題点はあるか。

公民館管理施設は19。

登録団体の利用が多く一般

の希望者が利用しにくい状

況にある。

社会体育団体と子ども

を支援指導している団体は。

登録団体76。うち子ど

もを指導している団体は22。

村の選手が大会で大活

躍と聞く。負担も心配だが。

村は人材育成推進事業

補助金や登録団体施設使用

料減免などで支援している。

観光協会への期待と駅前整

備について

駅舎の一部に観光案内

所の設置はどうか。

できるか検討したい。

理事会でセビアの営業

について決めたと聞くが、

村の施設なのだから議会な

どの意見も聞くべきでは。

意見として聞いておく。



平林(寛)議員

村長の政治姿勢について

2期目の公約にある村

民参加による行政運営は、

多目的文化施設でのワー

ショップ方式の導入が手本

だが、その他施策の考えは。

各種委員会には公募制

を積極的に取入れ、多くの

方の意見を村政に反映させ

たい。行政区の懇談会へも

今までどおり区の要請によ

り、担当課などと出向き

たい。村長室へは気軽に、

多数の方が来てほしい。

新設される多目的交流

施設の図書館に、村で情報

公開できる行財政関係の資

料を備え付けできないか。

公表できるものはして

いききたい。現在のワークシ

ョップでも何ができるか検

討して要望に応えたい。

企業誘致と村の活性化は

2期目の最大目標は、

上緑町工業団地への企業誘

致で全部埋める意気込みと

聞かどうか。

その意気込みで命を賭

けて頑張りたい。

第2期造成工事はどの

ように行うのか。

今のところ一気造成

一般質問

問 高規格道路の位置付けが工事着手の判断材料か。
答 県は秋までにルート決定の予定。豊科インター付近の起点を強く要望したい。
問 企業が進出しやすい土地価格にするため、今後買入れる土地の購入価格の交渉は可能か。
答 交渉できればしたい。



横沢議員

問 地産地消と農業観光
 松川は有史以来、米の村だが農業活性化のため最も実現したいことは何か。
答 昔はブリー本が米一俵と言われた。米価対策が課題。農地・水・環境保全対策で白地も対象になるよう国・県へ要望したい。
問 地産地消は生産者と消費者の交流が大事。その取り組みのひとつに市民農園があるが状況は。
答 村内2カ所30区画あり1区画年間3千円の使用料。営農支援センターが支援し19年度は24人が利用した。年々希望者が増えている。
問 生産者が安心して農産物の量産ができるよう上緑町工業団地に低温倉庫の建設はどうか。
答 倉庫業での建設は可能だが、村が建設する考えはない。
問 村農業活性化には観光との結合が不可欠だ。公約にある観光農業の振興策は。
答 リンゴ・水田のオーナー制度。民泊による学生の農業体験受入れなどにも取り組むたい。
問 観光農業の振興には景観づくりが大事。現在の風景を守るため村全体を網羅した景観条例の必要性は。
答 必要が検討したい。
問 生垣などには補助制度があるが個人負担も大きい。既存のブロック塀に蔦などを這わせ、その苗木代を補助しないか。
答 研究してみたい。



河内議員

問 村で農薬の処分を
 冷凍餃子の中毒事件で農薬問題に関心が高い。きちんとした農薬管理が農産物の安全安心につながる。
答 農薬は、使用者が自己責任において管理をお願いしたい。
問 危険箇所はPTA・区から要望があれば対応したい。舗装については自然を大切に、土に触れる田舎道を大事にしたい。
答 危険箇所はPTA・区から要望があれば対応したい。舗装については自然を大切に、土に触れる田舎道を大事にしたい。
問 通学道路は実態を見てフェンス・簡易舗装で安全安心にしないか。
答 危険箇所はPTA・区から要望があれば対応したい。舗装については自然を大切に、土に触れる田舎道を大事にしたい。



盛況だった「花のじゅうたん祭り」

問 行政区の要望解決はスピードアップを
 区からの道水路関係の要望は、もう少しスピードアップで対応してほしいが。
答 ライフラインの整備は予算の許す限り、今までもスピードアップでやってきた。さらに緊急なものは区から担当課へ上げてほしい。
問 区からの道水路関係の要望は、もう少しスピードアップで対応してほしいが。
答 ライフラインの整備は予算の許す限り、今までもスピードアップでやってきた。さらに緊急なものは区から担当課へ上げてほしい。



榎葉議員

問 村長の政治姿勢とは
 「帰りたくなる村」にするための施策とは何か。
答 就学などで村を離れた子どもが村に帰りたいと思う事。雇用確保のため工場誘致について特に力を入れて頑張りたい。
問 自立の村づくり計画の進捗状況を検証し、村民に報告するとの事だがまだか。
答 議会、地域づくり推進委員会へは6月議会までに報告し、その後広報などで発表したい。
問 1期4年間で、協働の村づくりの取組みで印象に残っているものは何か。
答 ワークショップ 各区での行政懇談会。役場から最小の人数で出席し、区に合わせ開催できた。村長の開室の開放をした。
問 地域づくり活動活性化支援補助金の要綱
 長室の開放をした。
問 地域づくり活動活性化支援補助金の要綱
 長室の開放をした。
問 村長の公約を問う
 工業団地内の臭気・騒音など村独自の基準はどうなっているか。
答 公害防止協定書の案はある。関係機関と協議し早期に示したい。



甲斐澤議員

問 一般競争入札の時代だが、村も取入れないか。
答 村内企業を優先しながら、村が有利な方法を考えている。
問 保育園の卒園式で、自分で育てた野菜はおいしいと言っていた。早寝早起朝ごはんなどの食育の考えは。
答 学校給食センターでは米飯を週4日に改善し、センターの今後のあり方を検討する委員会を設置予定。
問 国保税20%値上げなど村民負担増の現状。副村長を置かずがんばれないか。
答 人口1万人の村として私と同じ意見を持つ副村長は必要と考える。
問 10年先を見越した長期ビジョンを策定し、最終責任は自分が取るから努力してくれと職員に的確な指示を出し、強いコマの心棒役をしてほしい。心棒がぶれたり、ねじれると村がぶれることを肝に銘じて、がんばってほしい。
答 肝に銘じてやっていきたい。

* 松川村議会の一般質問は1人1時間で質問しますが、紙面の都合により一部の掲載となります。
 *ご確認される場合は議会事務局 ☎62 31111 までお問合せください。